

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
I-1-(2)-⑤ 子どもの特性を伸ばす教育の充実	1	④ ⑪	博物館セカンドスクール事業	自然・歴史博物館普及課	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものである。	学校団体誘致数	1,116団体 (H24年度)	目標 1,000 団体	実績 947 団体	達成率 94.7 %	1,000 団体 (毎年度)	1,339	1,141	1,344	16,075	遅れ	コロナ禍において学校団体等からのキャンセルが相次いだ。 また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための休館や、体験活動等の実施人数を制限したため、学校団体誘致数、学校関係入館者数が目標の40%未満となったことから「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館や来場人数の制限イベント自粛などの対策を行った結果、目標に届いていないことから「遅れ」と判断。 【課題】 コロナ禍における博物館及び文学館の運営を検討・検証する必要がある。	博物館を第二の学校として位置づけ、子どもたちの学習意欲を喚起するなど、コロナ禍においても、学校教育支援をさらに推進する。 また、文学館については、コロナ禍に対応しつつ企画展やイベントの実施、周辺施設との連携等により、来館者やリピーターの増加を図る。
	2	④ ⑪	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数	10,741人 (H23年度)	目標 7,500 人	実績 20,896 人	達成率 278.6 %	30,000人 (R3年度)	26,821	9,789	8,784	30,950	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館(R2.2~R2.6)や特別企画展の変更、イベントの自粛などの対策が必要となった。 安全に観覧できる感染防止対策の実施や、展示を紹介する動画配信などの取組を行ったものの、入館者数が減少したことから「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭教育学級の開設数は減少し、家庭教育学級長へのアンケートも未実施のため、達成率の算出はできていないことから「遅れ」と判断。 一方、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 【課題】 今後、市民センターが核となって家庭・地域・学校が連携する仕組みを充実させる必要がある。 また、コロナ禍において保護者の学びを止めないため、オンラインを活用するなど、家庭教育学級の開催方法について工夫する必要がある。	コロナ禍においても家庭教育学級を開設できるよう環境整備を図る。 また、市民センターを核とした家庭教育学級の実施・運営方法等について、引き続き、関係者へのアンケートなどをもとに改善を図る。
I-1-(3)-② 家庭教育支援の充実	3	③ ④ ⑪ ⑪	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	家庭教育学級長向けアンケート満足度	—	目標 65 %	実績 57.3 %	達成率 88.2 %	85% (毎年度)	5,925	2,910	4,617	9,150	遅れ	新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面型の家庭教育学級の実施が困難な状況であったため、開設箇所は前年度の半数以下となった。 また、開設した場合でも、学級長を選出せず実施した学校が多数であったため、学級長向けのアンケートを実施できず、達成率の算出はできていない。 以上のことから「遅れ」と判断。 一方、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。	遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭教育学級の開設数は減少し、家庭教育学級長へのアンケートも未実施のため、達成率の算出はできていないことから「遅れ」と判断。 一方、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 【課題】 今後、市民センターが核となって家庭・地域・学校が連携する仕組みを充実させる必要がある。 また、コロナ禍において保護者の学びを止めないため、オンラインを活用するなど、家庭教育学級の開催方法について工夫する必要がある。	コロナ禍においても家庭教育学級を開設できるよう環境整備を図る。 また、市民センターを核とした家庭教育学級の実施・運営方法等について、引き続き、関係者へのアンケートなどをもとに改善を図る。

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	4	③ ④ ⑪ ⑰	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	目標	—	65 %	85 %	85% (毎年度)	5,925	2,910	4,617	9,150	遅れ	新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面型の家庭教育学級の実施が困難な状況であったため、開設箇所は前年度の半数以下となった。 一方、オンラインでも、学級長を選出せず実施した学校が多数であったため、学級長向けのアンケートを実施できず、達成率の算出はできていない。 以上のことから「遅れ」と判断。 一方、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。	遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭教育学級長へのアンケートも未実施のため、達成率の算出はできていないことから「遅れ」と判断。 一方、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 【課題】 今後、市民センターが核となって家庭・地域・学校が連携する仕組みを充実させる必要がある。 また、コロナ禍において保護者の学びを止めないため、オンラインを活用するなど、家庭教育学級の開催方法について工夫する必要がある。	コロナ禍においても家庭教育学級を開設できるような環境整備を図る。 また、地域全体で家庭教育を支えるため、子育てサポーターを養成し、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局との協議を継続する。
						実績	—	57.3 %	—										
						達成率	—	88.2 %	—										
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑯ ⑰	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。 また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	目標	93,589人 (H25年度)	110,000人	110,000人	前年度以上 (毎年)	13,574	12,657	12,056	6,900	順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、予定していた講座を実施できない期間があった。また、感染予防対策のため、講座の参加人数を例年より減らす必要があったため、達成率が40.4%となった。 しかしながら、生涯学習に関する満足度については、達成率が97.7%となった。 以上のことから「順調」と判断。 なお、コロナ禍においても市民に学習機会を提供できるように各区に必要な機材を配置するなど、オンライン環境の整備を図った。	やや遅れ	【評価理由】 生涯学習市民講座参加者数及び生涯学習推進コーディネーターの配置割合の成果指標の達成率が共に60%を下回ったため、「やや遅れ」と判断 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題や現代的課題(社会的課題)等の解決を目指す講座を増やす必要がある。また、コロナ禍において、市民に学習機会を提供するため、オンライン環境の整備を更に進める必要がある。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長にコーディネーターの必要性や人材の確保について、市民センター館長に更に周知していく。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き、資質向上を図る研修等を行う。	
						実績	124,765人	124,765人	44,429人										
						達成率	113.4 %	40.4 %											
	6	④ ⑪ ⑰	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	多様化・高度化する市民の学習要求に応え、生涯学習事業の充実及び学習の促進を目的に、全市民センターに生涯学習推進コーディネーターを配置する。	目標	56.2% (H25年度)	80 %	85 %	60% (毎年度)	7,316	4,978	5,515	3,650	やや遅れ	成果指標に対する達成率は60%以下であったため、「やや遅れ」と判断。			
						実績	—	45.4 %	49.2 %										
						達成率	—	56.8 %	57.9 %										

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施				【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
I-3-(2)-① 地域活動をリードする人材の育成	7	④ ⑪ ⑰	北九州市民カレッジ事業	管理運営課	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。北九州市民カレッジの講座は、生涯学習総合センター主催コース(まちづくり・人材育成系、総合・教養系の2コース)と高等教育機関連携コースを前期・後期の2期で実施。	受講者数 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	1,435人 (H28年度)	目標 1,470 人 実績 1,627 人 達成率 110.7 %	1,500 人 529 人 35.3 %	1,700人 (毎年度)	5,119	3,338	4,076	20,700	順調	緊急事態宣言下のため、前期講座を全て中止(25→0)。また、後期講座についても中止(31→26)等あったため、受講者数については減少した。しかし、受講者からは目標を上回る高い満足度をいただいている。以上のことから「順調」と判断。			
	8	③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑰	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	93,589人 (H25年度)	目標 110,000 人 実績 124,765 人 達成率 113.4 %	110,000 人 44,429 人 40.4 %	前年度以上 (毎年)	13,574	12,657	12,056	6,900	順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、予定していた講座を実施できない期間があった。また、感染予防対策のため、講座の参加人数を例年より減らす必要があったため、達成率が40.4%となった。しかしながら、生涯学習に関する満足度については、達成率が97.7%となった。以上のことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習市民講座、北九州市民カレッジともに、新型コロナウイルス感染症の影響により講座数が減少し、受講者数は目標に届かなかったが、受講者の満足度については目標を達成した。また、地域課題解決のための人材活用支援について、人材マッチングモデル事業や市民センター館長等研修を実施するなど、取組を進めた結果、概ね目標を達成した。以上のことから「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題や現代的課題(社会的課題)等の解決を目指す講座を増やす必要がある。また、コロナ禍において、市民に学習機会を提供できるよう各区に必要な機材を配置するなど、オンライン環境の整備を図った。	地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。また、オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやWeb動画を活用した講座を実施できるよう市民センター館長・職員等の研修を充実させる。地域活動をリードする人材発掘、育成、活動を図るため、学習者の活動意向を把握し、活動につなげるための仕組みづくりなど支援を行う。
						生涯学習活動に関する満足度 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	96.3% (H25年度)	目標 90 % 実績 88.5 % 達成率 98.3 %	90 % 90 % 87.9 % 97.7 %	95%以上 (R7年度)									
9	④ ⑪ ⑰	地域課題解決のための人材活用支援事業	生涯学習課	地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活動までを体系的に支援し、地域力アップにつなげる仕組みをつくる。学んだ成果を地域に活かす講座の開催、地域活動をリードする人材育成事業(市民センター館長等研修など)及び多様な機関との連携強化を実施する。	「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	37.6% (H27年度)	目標 58 % 実績 30.6 % 達成率 52.8 %	60 % 37.5 % 62.5 %	50% (R7年度)	901	576	253	5,400	順調	人材マッチングモデル事業では新たに北九州市立大学や九州共立大学の公開講座と連携した取組を実施することができた。また、市民センター館長等研修を実施し、地域活動をリードする人材育成に取り組んだ。市政モニターアンケート結果では、成果指標の達成率が62.5%である。以上により、「順調」と判断。				

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題
I-3-(2)-② 地域を支えるボランティアの育成	10	④ ⑪	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	120	法人	135	法人	135法人 (R2年度)	20,176	19,803	18,314	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンター利用者数は大きく減少したものの、講座実施や広報誌などの発行は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数は目標を概ね達成している一方、サポートセンター利用者数は大きく減少しているが、事業自体は概ね順調に遂行されており「順調」と判断。 【課題】 市民活動のさらなる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活発に活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
							実績	116	法人	128	法人										
目標	25,000	人	25,000	人	20,000人 (毎年度)		実績	29,293	人	11,572	人										
※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	92%	(H23年度)	目標	90		%	90	%	90%以上 (毎年度)	実績	94.1	%	93.5	%	達成率	104.6	%	103.9	%		
消費生活センターの認知度	91.5%	(H26年度)	目標	90		%	90	%		90%以上 (毎年度)	実績	94.5	%	95.7	%	達成率	105.0	%	106.3	%	
II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上	11	④	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合	目標	90			%	90	%	15,520	11,306	12,990	8,075	順調	消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合ともに目標値を上回り、高い数値を維持しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。 【課題】 消費者トラブルが多発している中で、消費者から最初に連絡を受ける存在として、今後も安定した活動を推進する必要がある。
							実績	94.5	%		95.7	%	達成率								
目標	90	%	90	%	実績		94.5	%	95.7	%	達成率	105.0	%								

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度 決算額 (千円)	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)			事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
II-1-(3)-① 「北九州市安全・安心条例」の 制定と安全・安心に関する 施策の推進	12	①	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組み、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	14,170人 (H27年度)	目標 20,000人 実績 38,225人 達成率 191.1%	前年度比増 45,087人 118.0%	前年度比増(毎年度)	7,339	3,965	6,332	15,900	順調	「ながら見守り活動」の推進により、防犯パトロール活動参加者が増加し、市民の体感治安も改善されていることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各種セミナーを行うことができなかった。 一方で、防犯パトロール活動の参加者は増加しており、安全・安心総合相談ダイヤルによる相談体制も充実しており、認知度も増加してきている。 その結果として市民が感じる治安状況の改善につながっているため「順調」と判断。	県警察などと連携し、地域の生活安全パトロール隊に粒度の高い犯罪情報を提供しパトロール活動に活かすなど、警察・地域と連携した性犯罪抑止活動を推進する。 また、犯罪認知件数の減少に体感治安の改善に伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心なまちづくりに向けた情報や取組を市内外に発信していく。
	13	①	子どもと女性の犯罪被害防止対策事業	安全・安心推進課	子どもや女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校数 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	35校 (H25年度)	目標 125校 実績 136校 達成率 108.8%	前年度比増 155校 94.8%	185校 (R3年度)	3,087	772	5,943	15,900	順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各種セミナーの実施回数は落ち込んだものの、性犯罪の認知件数は減少したため「順調」と判断。	順調	【課題】 コロナ禍においても事業の実施を可能とするため、新しい生活様式を踏まえた既存事業の見直しや新規事業の取組が必要である。 また、体感治安のさらなる向上に向けて、引き続き安全・安心に関する取組の情報発信が求められる。	安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものため、継続して事業を実施していく。
	14	①	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心推進課	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	22% (H27年度)	目標 前年度比増(27.7%) 実績 33.6% 達成率 121.3%	前年度比増 36.1% 107.4%	前年度比増(毎年度)	18,838	17,735	16,110	15,900	順調	安全・安心総合相談ダイヤルについて、認知度が増加し、また円滑に運営出来ているため、「順調」と判断。			

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	15	⑤	地域防犯対策 事業	安全・心 安推進 課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)	目標 前年(2,727件)比減	実績 2,498件	2,019件	前年比減	28,749	24,525	28,298	15,900	順調	【評価理由】 「ながら見守り活動」等を推進し、地域の見守りの目が着実に増加していることや防犯灯及び防犯カメラの設置が進むことにより、刑法犯認知件数や市民が感じている治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 「ながら見守り活動」の更なる推進に加え、既存の生活安全パトロール隊やながら見守り宣言企業等への支援の強化を図り、地域の見守りの目をより充実させる等、様々な取組によって、さらなる犯罪件数の減少や体感治安の改善を図る必要がある。	既存の防犯活動団体の支援を強化し、防犯活動の更なる活性化を図る。また、引き続き防犯カメラや防犯灯の整備による防犯活動強化を図るとともに、設置後の適正な維持管理・運用に努める。	
						市民が感じる治安状況(体感治安) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	73.7% (H27年度)	目標 90%	実績 86.1%	87.2%	前年度比増(毎年度)								達成率 108.4%
16	⑥		防犯灯設置事業	安全・心 安都整 備課	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置促進を図り、町内会等の地域の防犯灯の設置のため費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進。	刑法犯認知件数 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	9,682件 (H27年)	目標 8,000件	実績 6,127件	5,145件	前年度比減(毎年度)	102,743	36,286	37,951	3,435	順調	防犯灯の設置(LED化)が進み、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。		
						市民が感じる治安状況(体感治安) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	73.7% (H27年度)	目標 90%	実績 86.1%	87.2%	前年度比増(毎年度)								達成率 123.4%

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性							
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題								
17	16		通学路防犯灯 事業	安全・ 安心市 整備課	通学路において、 市によるLED防犯灯 の設置を行い、通学 路の夜間の安全確保 に取り組む。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標 8,000 件	前年度比減	北九州 市安 全・安 心条例 行動計 画(第2 次)に て決定	9,500	8,805	6,586	3,435	順調	刑法犯認知件数や市民が 感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから 「順調」と判断。										
						実績	6,127 件	5,145 件																		
						達成率	123.4 %	116.0 %																		
						市民が感じる治 安状況(体感治 安)	73.7% (H27年 度)	目標 90 %	前年度比増	北九州 市安 全・安 心条例 行動計 画(第2 次)に て決定									46,611	42,006	41,638	3,435	順調	防犯カメラの適正な維持 管理のもと、そのデータは 有効に活用されており、刑 法犯認知件数や市民が感 じる治安状況が概ね目標を 達成していることから「順 調」と判断。		
						実績	86.1 %	87.2 %																		
						達成率	95.7 %	101.3 %																		
市民が感じる治 安状況(体感治 安)	73.7% (H27年 度)	目標 90 %	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)	46,611	42,006	41,638	3,435	順調	防犯カメラの適正な維持 管理のもと、そのデータは 有効に活用されており、刑 法犯認知件数や市民が感 じる治安状況が概ね目標を 達成していることから「順 調」と判断。																
実績	86.1 %	87.2 %																								
達成率	95.7 %	101.3 %																								
刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標 8,000 件	前年度比減	前年度 比減 (毎年 度)									46,611	42,006	41,638	3,435	順調	防犯カメラの適正な維持 管理のもと、そのデータは 有効に活用されており、刑 法犯認知件数や市民が感 じる治安状況が概ね目標を 達成していることから「順 調」と判断。								
実績	6,127 件	5,145 件																								
達成率	123.4 %	116.0 %																								

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
19	16		防犯カメラ設置補助事業	安全・安心都市整備課	安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取り組みを推進する。	刑法犯認知件数 ※中期目標改訂 (R3年度目標設定時)	9,682件 (H27年)	目標 8,000 件 前年度比減 実績 6,127 件 5,145 件 前年度比減 (毎年度)	達成率 123.4 % 116.0 %	前年度比減 (毎年度)	12,650	8,599	12,326	3,435	順調	申請取り下げ等に伴い、最終的な設置台数は目標を超えていないが、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。			
					市民が感じる治安状況 (体感治安)	73.7% (H27年度)	目標 90 % 前年度比増 実績 86.1 % 87.2 % 前年度比増 (毎年度)	達成率 95.7 % 101.3 %	前年度比増 (毎年度)										

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
II-1-(3)-③ 暴力団 追放運 動の推 進	20	①	暴力追放の推 進	安全・心 推進課	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識を高める市民暴力追放総決起大会や暴力追放強調月間による集中的な啓発活動などを実施し、官民一体となって取り組む。	暴追対策に対して評価した市民の割合	48% (H25年度)	前年度比増 (79.0%)	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	12,599	4,567	7,364	12,850	順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で市民大会は中止し、研修会についても書面開催とした。 一方で、暴追対策に対して評価した市民の割合は、対前年比ほぼ横ばいであるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市民暴力追放総決起大会は中止を余儀なくされた。 一方で、集中啓発週間や書面での研修開催など事業者・市民の暴排意識を高める取組を行ったことにより、暴追対策に対して評価した市民の割合は、対前年比ほぼ横ばいであるため「順調」と判断。	引き続き暴力追放の取組を進めると共に、より細やかな民事介入暴力相談の実施等、内容の充実を図っていく。
						企業における暴力団排除条項の規定割合	55.8% (H25年度)	80 % 以上	単年度目標 設定なし	R1年度 比増 (R3年度)									
	21	①	民事介入暴力 相談事業	安全・心 推進課	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談を実施。	暴追対策に対して評価した市民の割合	48% (H25年度)	前年度比増 (79.0%)	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	16,365	11,057	20,150	4,300	順調	コロナ禍において対応が制限される中でも、前年度と同程度の相談業務を実施しており、暴追対策に対して評価した市民の割合は、対前年比ほぼ横ばいであるため「順調」と判断。	順調	【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を加味した、非接触型での啓発活動など新たな形での取組を見出す必要がある。	
						企業における暴力団排除条項の規定割合	55.8% (H25年度)	80 % 以上	単年度目標 設定なし	R1年度 比増 (R3年度)									

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	22	⑥	交通安全推進事業	安全・安心都市整備課	第9次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	8,325件(H26年)	目標 前年(6,649件)比減	7,300件以下	第10次北九州市交通安全計画にて決定	15,510	14,337	13,740	9,800	順調	交通事故死亡者数が目標の「19人以下」を1人上回ったが(達成率94.7%)、交通事故発生件数が目標の「7,300件以下」を大きく下回ったため(達成率139.0%)「順調」と判断。	【評価理由】 交通事故発生件数、自転車関連事故の発生件数は、着実に減少しているため「順調」と判断。 【課題】 効果的な交通事故防止事業となるよう、対象を絞って事業を実施する必要がある。 また、交通安全教育や啓発活動を積極的に行うことにより、交通ルール、マナーの徹底を図る必要がある。	引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。	
	23	⑥	交通安全センター管理運営	安全・安心都市整備課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車の安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	8,325件(H26年)	目標 前年(6,649件)比減	7,300件以下	第10次北九州市交通安全計画にて決定	27,881	27,881	27,767	3,650	大変順調	交通事故の発生件数が目標の「7,300件以下」を大きく下回り(達成率139.0%)、自転車関連事故の発生件数も前年比較で大幅に減少している(達成率120.3%)ため、「大変順調」と判断。			
					自転車関連事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	972件(H26年)	目標 前年(701件)比減	前年比減	前年比減(毎年)										
							実績 5,542件	4,450件											
							達成率 116.6%	139.0%											
							実績 23人(H26年)	19人	20人										
							目標 前年(28人)比減	19人以下											
							達成率 132.1%	94.7%											

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
II-1- (3)-⑤ 非行や 犯罪を 生まな い地域 づくり	24	⑤	地域防犯対策 事業	安全・ 安心 推進 課	北九州市安全・安 心条例では、「市民 等は安全・安心に 関する意識を自ら 高め、行動すること」 「市及び市民等は 相互に連携を深め、 防犯活動を協力を して推進すること」 と定められている。 この事業では、 市民の防犯意識を 高め、地域住民の 自主防犯活動を 促進し、安全・安 心を実現できるま ちの実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)	目標 前年(2,727 件)比減	前年比減	前年比減	28,749	24,525	28,298	15,900	順調	新型コロナウイルス感 染症拡大防止のた めの緊急事態宣 言の影響等で、 例年に比べて生 活安全パトロール 隊の活動が減少 傾向にあったが 、通勤や買い物 等の途中に防犯 の視点を持って 地域を守る「な がら見守り活動 」等を推進し、 地域を見守る目 の増加を図った ことで、街頭犯 罪は減少してい るため、「順調」 と判断。	順調	【評価理由】 「ながら見守り活 動」等を推進し 、地域の見守り の目が着実に増 加していること や、刑法犯認知 件数や市民が感 じている治安状 況が目標を達成 していることから 「順調」と判断。 【課題】 「ながら見守り活 動」の更なる推 進に加え、既存 の生活安全パト ロール隊やなが ら見守り宣言企 業等への支援の 強化を図り、地 域の見守りの目 をより充実させ ることで、さら なる犯罪件数の 減少や体感治安 の改善を図る必 要がある。	既存の防犯活動 団体の支援を強 化し、防犯活動 の更なる活性化 を図る。
						市民が感じる治 安状況 (体感治安) ※中期目標改訂 (R3年度目標設 定時)	73.7% (H27年 度)	目標 90 %	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)									
II-3- (4)-① 平和の 尊さへ の理解 の促進	25	⑩	戦時資料展示 コーナー管理 運営事業	地域 振興 課	市民から寄贈が あった戦時下の 資料を保管、展 示することによ り、北九州市立 埋蔵文化財セン ター内に開設し た戦時資料展示 コーナーにおい て、戦争がもた らした惨禍と平 和の尊さを多く の市民に理解し てもらう。	戦時資料展示 コーナー見学者 数	3,647人 (H22年 度)	目標 4,000 人	4,000 人	4,000人 (毎年 度)	1,373	1,362	1,317	1,220	やや 遅れ	新型コロナウイルス 感染拡大による 閉館やその後の 外出自粛の影響 により、見学者 数の目標達成率 が約40%とな ったため、「やや 遅れ」と判断。 【課題】 戦時資料展示コ ーナー案内チラ ンを更新し、入 館者数の増加を 図っていく必要 がある。	やや 遅れ	【評価理由】 見学者数の目標 達成率が約40% となったため、「 やや遅れ」と判 断。 【課題】 戦時資料展示コ ーナー案内チラ ンを更新し、入 館者数の増加を 図っていく必要 がある。	令和4年の(仮 称)平和資料館 開設に伴い、戦 時資料展示コー ナーを移設する 予定。

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題
Ⅲ-1-(1)-④ 市民のモラル・マナーの向上	26	①	モラル・マナーアップ関連条例推進事業	安全・安心都市整備課	条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。 ・小倉・黒崎地区(迷惑行為防止重点地区)での巡視活動(過料の適用) ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援 ・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育 ・モラル・マナーアップに関する広報啓発	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	82団体 (H26年度)	目標	前年度(98団体)比増	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	18,127	17,943	18,158	6,150	順調	迷惑行為防止に係る地域活動団体数増加。路上喫煙率については、小倉地区、黒崎地区ともに減少したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 迷惑行為防止に係る地域活動団体数は前年度より増加し、活動の裾野が広がっている。また、路上喫煙率も減少しているため、「順調」と判断。 【課題】 円滑な巡視活動や迷惑行為防止に係る活動の裾野の拡大のための広報や周知が必要。	令和2年度から始まった基本計画(第3次基本計画)に基づき、引き続き迷惑行為の防止のための啓発活動を行っていく。	
						路上喫煙率(歩行者に占める喫煙者の割合)	小倉0.17% 黒崎0.24% (H26年度)	目標	前年度(小倉0.11% 黒崎0.23%)以下	前年度以下											前年度以下 (毎年度)
						実績	小倉0.08% 黒崎0.25%	小倉0.06% 黒崎0.19%	達成率	小倉127.3% 黒崎91.3%											
Ⅲ-2-(1)-② 地域における伝統文化の発掘・継承	27	①	文化財保存補助	文化企画課	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16団体 (H26年度)	目標	17 団体	17 団体	17団体 (毎年度)	1,127	776	1,094	11,050	順調	保存団体への周知と適切な協議を行った。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で行事を開催できず、当初計画どおりに事業を実施できない等で、申請金額を返還した団体もあったが、各団体とも次年度での実施の意欲は高く、文化財の保存伝承の成果はあったと考えられるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 補助制度について文化財保存団体への周知と適切な協議を進めることができ、またコロナ禍においても文化財保存伝承活動は継続していることから「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財保存団体の自主的な申請に対して補助を行う制度については、引き続き保存団体に対して周知を行っていく。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き、文化財保存団体の活動の強化に資する補助制度を継続していく。	
						実績	17 団体	13 団体													
						達成率	100.0 %	76.5 %													

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	
Ⅲ-2- (2)-① 発信力の高い 文化芸術の振 興	28	④ ⑪	芸術文化活性 化事業	文化 企画 課	【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施。 【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナルティのある演奏会を実施。	北九州芸術劇場・自主事業入場率	目標	87 %	87 %	87% (R5年度)	107,668	85,322	83,683	3,550	順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、市民自らの判断によるチケット購入の自粛傾向に加え、感染症対策として行った体調不良者への払い戻し対応等により、北九州芸術劇場においては入場率が目標値を下回ったものの、響ホール事業においては入場率は目標値を上回った。 以上に加え、感染防止対策の徹底や主催者への支援など、安全な催事実施に取り組み、本市の文化芸術活動の場を守り、文化振興に寄与したことから「順調」と判断。	今後とも発信力が高く、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性や収支の観点も加えながら、事業を実施していく。 また、映像製作誘致強化関連事業については、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底することで、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。 海外作品については、脚本中で本市を印象的に登場させるなど、実地でのロケが行えなくとも、将来のインバウンドを獲得できる取組を行う。 松永文庫では、企画展を安定実施し、動画配信による情報発信により、来館者数の目標を達成できるよう取組を継続していく。
							実績	90 %	78 %								
							達成率	103.4 %	89.7 %								
						響ホール事業・響ホール自主事業入場率	目標	65 %	65 %	65% (R5年度)							
							実績	80.3 %	71 %								
							達成率	123.5 %	109.2 %								
29	④ ⑪	北九州国際音楽祭	文化 企画 課	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、令和3年度で34回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。	北九州市国際音楽祭の満足度	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	90,000	63,526	26,085	1,625	順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1公演が中止となったものの、「東アジア文化都市北九州2020▶21」の連携事業としてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団等、国内外の一流の演奏家を招き、多くの方に音楽の魅力をお届けすることができた。 加えて、満足度も高い水準を維持しており、本市の文化振興に大きく寄与したことから「順調」と判断。		
						実績	99 %	99 %									
						達成率	116.5 %	116.5 %									

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)		事業 評価	評価の理由
30	⑧ ⑪		映像製作誘致 強化関連事業	文化 企画 課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000 千円 (H21年 度)	目標	150,000 千円	150,000 千円	150,000 千円 (R1年度 以降毎 年度)	42,224	17,106	31,650	47,100	やや 遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響で撮影支援活動が大幅に制約される中、新しい生活様式での映画鑑賞や映画館の魅力をPRする動画をドラマ仕立てで企画制作。「映画の街・北九州」として認知度に関する目標を達成。 一方、大規模撮影の延期・キャンセルが続いたことによりエキストラ・ボランティアの参加人数及び経済効果は目標に達しなかったことから「やや遅れ」と判断。		
							実績	91,540 千円	23,080 千円										
							達成率	61.0 %	15.4 %										
							目標	85.0 %	85.0 %										
							実績	89.5 %	86.8 %										
							達成率	105.3 %	102.1 %										
31	⑧ ⑪		松永文庫企画 事業	文化 企画 課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	89,317 人 (H26年 度)	目標	10 万人	10 万人	10万人 (毎年 度)	9,600	6,772	7,767	4,900	遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館のほか、外出を控える傾向が続いたこと等により、目標の達成率が3割に留まったことから「遅れ」と判断。		
							実績	8.1 万人	3 万人										
							達成率	81.0 %	30.0 %										

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	32	④ ⑪	芸術文化育成 基金・補助 金	文化 企画 課	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う。	各種文化事業の実施	16事業 (H23年度)	目標	15	事業	16	事業	16事業 (毎年度)	42,850	33,237	34,845	5,825	順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により1事業が令和3年度へ延期となった。 助成団体数は前年と同数であり、この助成制度により、地域・市民レベルにおける文化活動を支える一定の効果があることから「順調」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 文化団体や市民の行う芸術・文化活動を助成し、市民の文化芸術活動の促進に寄与したと判断できるが、一方で、目標に届かなかった指標もあるため、「やや遅れ」と判断。 【課題】 助成の内容や必要性を検討しながら、感染症対策を徹底し、事業を実施していく。	助成制度は、市民レベルでの活動を支えるものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のためにも、今後も継続して実施する。
	33	④ ⑪	北九州市文化 振興基金	文化 企画 課	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	27件 (H21年度)	目標	25	件	25	件	25件 (毎年度)	9,811	3,544	7,832	3,825	遅れ	若手アーティストの支援や芸術文化活動に対して助成を行うことができたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や緊急事態宣言の発令等の観点から、応募事業が減少し、募集実施回数と補助件数は目標を下回ったため「遅れ」と判断。			
Ⅲ-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大	34	④	美術館企画展 充実事業	美術 館普 及課	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	美術館の入館者数	245,420 人 (H26年度)	目標	230,000	人	240,000	人	240,000 人 (R3年度)	111,267	86,186	100,566	36,750	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館があり、コレクション展・企画展ともに入館者数が目標値に届かなかったため「やや遅れ」と判断。	【評価理由】 美術館、博物館ともに、新型コロナウイルス感染症の影響での休館などにより入館者数が減少したことから、「遅れ」と判断。 【課題】 隣接する大規模テーマパークの閉園に伴い、修学旅行やツアー等の団体客の減少が見込まれる中、より魅力的な特別展・企画展の実施、より効果的な広報PRの展開等、ソフト事業を充実させる必要がある。 また、文化庁の補助事業「東田地区ミュージアムパーク創造事業」における他施設との連携事業等を通じて、館独自の取組だけでなく、東田地区の連携事業についても積極的に取組、更なる集客増を図る必要がある。	これまで美術館に触れる機会の少なかった児童を対象とした「ミュージアム・ツアー」事業と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究し、より効果的な広報PRを行うなど、来館者の増加につなげたい。 また、博物館については、令和4年度は開館20周年であり、展示の入れ替えや魅力ある特別展を企画していく。	
							実績	203,789	人	93,479	人											
							達成率	88.6	%	38.9	%											
	35	④	博物館企画展・特別展 充実事業	自然 史・ 歴史 博物 館普 及課	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るもの。	博物館総入館者数	369,711 人 (H24年度)	目標	450,000	人	450,000	人	450,000 人 (毎年度)	60,000	26,180	45,933	74,600	遅れ	新型コロナウイルス感染症の拡大により、休館や特別展が開催できず入館者数が激減。入館者数が目標の40%未満となったことから「遅れ」と判断。 なお、現在は感染防止対策として事前Web予約制や入場制限をかけるなど対応を行い、客足は戻りつつある状況にある。			
							実績	452,863	人	137,736	人											
							達成率	100.6	%	30.6	%											
							目標	30,000	人	30,000	人	30,000 人 (R3年度)										
							実績	20,620	人	16,067	人											
							達成率	68.7	%	53.6	%											

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs コード 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度 決算額 (千円)	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)			事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題				
III-2-(2)-④ 文化芸術の担い手の育成	36	④	美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」	美術館普及課	市内の小学3年生を対象に、美術作品の鑑賞体験型のプログラムを作成し、子どもたちに体験してもらおうことでシビックプライドの醸成をはかる。	参加校の割合	14% (H29年度)	目標	100 %	100 %	100% (毎年度)	29,879	28,619	32,500	25,650	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、上半期に予定していた学校の多くが中止となったことから目標数をかなり下回る結果となったため「やや遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、参加校数や参加人数、作品応募数などについては目標を下回った。 一方で、実施形態を見直すなどの工夫・検討を行いながら事業を実施し、次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供することができ、また、文学賞についても選考委員から一定の評価をいただくなどの成果を上げることができた。 以上のことから、「やや遅れ」と判断。 【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しつつ、引き続き市民が様々な文化・芸術に触れる機会を確保していくことが必要である。	次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シビックプライドの醸成という観点からも、子どもたちや若者が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要である。 今後も、学校・地域等における教育普及活動（アウトリーチ）やホール等の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の充実に向けて、事業内容を検討していきたい。 また、引き続き、市民を対象とした公開事業や地域との連携、現代アートを紹介する場としてのCCA北九州の浸透、市民が合唱に親しむことのできる機会の提供などに努めていきたい。		
								実績	99 %	55.4 %												
								達成率	99.0 %	55.4 %												
37	④ ⑪	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	文化企画課	将来の文化・芸術の担い手を育成し、本市の文化振興をさらに進めるとともに、シビックプライドの醸成につなげていくため、若者や子どもたちを中心に優れた文化・芸術との“出会い”の場・機会を創造していく。	教育普及事業への参加者数の増加 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	2,500人 (H27年度)	目標	3,000 人	3,000 人	2,100人 (毎年度)	7,206	3,675	7,543	8,725	やや遅れ	北九州国際音楽祭において、子どもを対象としたウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の公開リハーサルを実施したほか、子どもたちが一流の音楽に触れることのできる機会を創ったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加人数の制限や、例年実施している放課後児童クラブでの訪問コンサートや伝統文化等を体験する子ども文化ふれあいフェスタなどが中止となったことを受け、参加者数としては目標値に達しなかったため「やや遅れ」と判断。	やや遅れ	【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しつつ、引き続き市民が様々な文化・芸術に触れる機会を確保していくことが必要である。				
							実績	3,449 人	1,647 人													
							達成率	115.0 %	54.9 %													
38	④ ⑪	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための文化講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。これら事業を実施しているCCA北九州を支援するもの。	フェロウシッププログラムの受講者数	6人 (H23年度)	目標	5 人	5 人	5人 (R3年度)	38,000	37,721	38,897	8,150	やや遅れ	CCA北九州のメイン事業であるフェロウシッププログラムでは、受講生選考を行い3名選抜したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により従来どおりの活動はできなかった。 市民対象の公開事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて参加者数は目標に届かなかったが、会期の延長を行ったり、地域住民を対象とした講座も感染対策を行い実施するなど、全体的に成果は得られた。 以上のことから、市民への浸透は一定の効果があったが、成果指標の目標値には到達しなかったため「やや遅れ」と判断。	やや遅れ					
							実績	3 人	3 人													
							達成率	60.0 %	60.0 %													
					CCA北九州事業参加者人数	2,122人 (H23年度)	目標	1,800 人	1,800 人	1,800人 (R3年度)												
							実績	1,133 人	713 人													
							達成率	62.9 %	39.6 %													

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	
39	④		子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作品を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、全国の小中学生を対象に創設した文学賞。	応募総数	570件 (H27年度)	目標 1,000 件	実績 684 件	1,000件 (R3年度)	10,731	8,336	8,164	5,400	遅れ	当文学賞の受賞作品は全国的にも評価が高く、広く周知されてきているが、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校や夏休み短縮により、令和2年度は学校を通じての作品応募数は減少したため「遅れ」と判断。			
40	④		林芙美子文学賞	文学館	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文学的土壌を全国に発信するとともに、これから文壇デビューを目指す新たな文学の才能を発掘することを目的に実施するもの。	「林芙美子文学賞」作品応募数	484件 (H29年度)	目標 500 件	実績 384 件	500件 (R3年度)	11,630	8,423	7,934	4,550	順調	作品応募数は目標に至らなかったが、昨年度を上回っており、作家として書き続けていく力量を持った書き手に絞り込まれ、選考委員から一定の評価をいただいていることから「順調」と判断。			
41	④ ⑪		「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い年代の多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めていく。	合唱関連事業における歌い手としての参加者	682人 (H27年度)	目標 400 人	実績 359 人	250人 (毎年度)	1,200	0	3,876	7,150	やや遅れ	北九州市少年少女合唱団が1年間の練習の成果を発表する場として定期演奏会の代わりにウィンターコンサートを開催するなど、合唱に触れる場を守り、文化振興に寄与したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止及び市民の安全を第一に考え、例年実施してきた市民合唱フェスティバルや市内のコーラスグループによる街なかでのコンサートを中止し、参加者数としては目標値に達しなかったため「やや遅れ」と判断。			

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性							
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題					
Ⅲ-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり	42	④ ⑧ ⑩	創造都市推進事業	東アジア文化都市推進室	文化芸術の力を活用した「創造都市・北九州」の実現に向け、東アジア文化都市北九州を開催する。同時に東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの推進等に取り組む。	2020年東京大会に向けた文化プログラムの認証件数(累計)	H28年度開始	目標	20	件	20	件	20件 (R3年度)	435,000	149,064	3,159	64,000	順調	令和2年3月に「東アジア文化都市北九州2020▶21」を開催し、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が延期・中止となったが、文化プログラム認証件数は目標数を上回り、文化芸術を「身近に感じたことがある」市民の割合も目標の約90%に達しているため「順調」と判断。	【評価理由】 創造都市推進事業では、令和2年3月に「東アジア文化都市北九州2020▶21」を開催し、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業の延期・中止となったが、文化プログラム認証件数は目標数を上回った。 また、映像制作誘致強化関連事業は高い認知度を維持し続けている。 一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館等により、松本清張記念館、博物館等の各施設における入館者数が減少し、目標を下回った。 以上のことから、「やや遅れ」と判断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの事業や各施設におけるイベント、企画展等が延期・中止となっているが、感染防止対策を行ったうえで事業を実施するとともに、多くの市民に文化施設へ来館していただくため、より魅力のある展示、運営等を図っていく。	各事業を通じて、国内外へ「創造都市・北九州」としての都市ブランドを発信し、市民のシビックプライドの醸成につなげる。 さらに今後は、感染症対策を十分に行うなど新しい生活様式に対応しながら事業を実施していく。 各施設の運営については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ったうえで、より一層魅力的な企画展等を企画し、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。 なお、博物館については、令和4年度は開館20周年であり、展示の入れ替えや魅力ある特別展を企画していく。					
					文化芸術を「身近に感じたことがある」と思っている市民の割合	41.1% (H30年度)	目標			51.1	%	51.1% (R3年度)										実績			43.7	%
達成率					85.5	%																				
43	④		北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム事務局	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	83,161人 (H27年度)	目標	100,000	人	100,000	人	10万人 (毎年度)	65,023	48,616	58,677	44,000	遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため令和2年2月～6月まで常設展・企画展ともに臨時休館を行ったことや、開館したものの令和3年1月13日付で再び福岡県へ緊急事態宣言が適用されたことなどから、年間入場者数が目標値の25.6%に留まったため「遅れ」と判断。							
					実績			81,502	人	25,564	人															
達成率			81.5	%	25.6	%																				

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)		決算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価
44	⑧ ⑪		映像製作誘致 強化関連事業	文化 企画 課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	目標	150,000	千円	150,000	千円	150,000 千円 (R1年度以降毎年度)	42,224	17,106	31,650	47,100	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響で撮影支援活動が大幅に制約される中、新しい生活様式での映画鑑賞や映画館の魅力をPRする動画をドラマ仕立て企画制作。「映画の街・北九州」として認知度に関する目標を達成。 一方、大規模撮影の延期・キャンセルが続いたことによりエキストラ・ボランティアの参加人数及び経済効果は目標に達しなかったことから「やや遅れ」と判断。		
							実績	91,540	千円	23,080	千円									
							達成率	61.0	%	15.4	%									
							目標	85.0	%	85.0	%									85.0% (R1年度以降毎年度)
							実績	89.5	%	86.8	%									
							達成率	105.3	%	102.1	%									
45	④ ⑪		北九州文学サロン管理運営事業	文化 企画 課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	目標	14,000	人	14,000	人	14,000 人 (毎年度)	11,000	10,541	10,690	6,400	やや遅れ	コロナ禍の中で感染拡大防止に努めながら複数のイベントを計画・実施し、来館者に「文学の街・北九州」を発信することができたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、利用時には来館者に感染防止対策に努めてもらい、緊急事態宣言下では文学サロンを閉館した。その影響から来館者数が目標を下回ったため「やや遅れ」と判断。		
							実績	15,057	人	6,164	人									
							達成率	107.6	%	44.0	%									

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	
46	⑧ ⑪		松永文庫企画 事業	文化 企画 課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	89,317 人 (H26年 度)	目標 10 万人	実績 8.1 万人	10万人 (毎年 度)	9,600	6,772	7,767	4,900	遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館のほか、外出を控える傾向が続いたこと等により、目標の達成率が3割に留まったことから「遅れ」と判断。			
47	④		松本清張記念 館研究セン ター・普及事 業	松本清 張記念館 事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館 の入館者数	58,187 人 (H22年 度)	目標 前年度 (42,502人)比 増	実績 47,828 人	前年度比増	14,342	9,638	14,319	23,250	遅れ	企画展は当初の目標通り開催し来館者の満足度は前年度より微増したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館(R2.4.1~R2.6.18)やその後の外出自粛等により入館者が激減したため「遅れ」と判断。			
						企画展入場者の 満足度	85% (H22年 度)	目標 90 %	実績 86.4 %	90%以上 (毎年 度)							96.0 %	97.4 %	
48	④ ⑧ ⑪		北九州市東田 地区ミュージ アムパーク創 造事業	文化 企画 課	東田地区において、いのちのたび博物館を中核に環境ミュージアムや周辺商業施設等と連携した企画展の開催や、周遊ツアーの企画、地区内施設の多言語化等、文化観光の推進を図る。	東田地区にお ける文化関連施設 3館の来館者数 の増加率 (対H29年度 比)	約73万 人 (H29年 度)	目標 5 % 増	実績 13 % 減	10%増 (R2年 度)	26,800	22,094	6,000	9,800	遅れ	令和2年11月に文化観光推進法に基づく認定を受け、連携企画展やイベントの開催、多言語化など、東田地区を中心とした文化観光の推進に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症による臨時休館等の影響を受け、来館者数が大幅に減少し、目標に到達できなかったため「遅れ」と判断。			

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度 人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題			
Ⅲ-2-(3)-① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	49	④	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数	30,367人 (H26年度)	目標 21,000人 実績 30,139人 達成率 143.5%	R1年度 21,000人 R2年度 14,816人 70.6%	21,000人 (R1年度以降毎年度)	5,245	3,698	6,354	4,650	順調	新型コロナウイルス感染症の影響で参加者が減少したものの、目標の70%を達成したため「順調」と判断。				
	50	④	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	生涯スポーツの普及・振興のため、各区におけるニュースポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,371人 (H26年度)	目標 15,000人 実績 14,931人 達成率 99.5%	R1年度 15,000人 R2年度 428人 2.9%	15,000人 (R1年度以降毎年度)	18,066	15,607	18,943	990	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響でイベント中止が相次ぎ、目標を達成できなかったため、「遅れ」と判断。	【評価理由】 「各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数」及び「総合型地域スポーツクラブの会員数」については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標を達成できていない。 一方で、市民体育祭については新型コロナウイルス感染症の影響下にもかかわらず目標の70%を達成し、夢・スポーツ振興事業については、目標を大幅に上回る実績を出している。 以上のことから「順調」と判断。			
	51	④	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,800人 (H22年度)	目標 3,600人 実績 2,074人 達成率 57.6%	R1年度 4,000人 R2年度 1,675人 41.9%	4,000人 (R4年度)	3,022	3,022	2,660	2,325	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響でイベント中止が相次ぎ、目標を達成できなかったため、「やや遅れ」と判断。	【課題】 地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創り、地域社会全体のスポーツ環境を形成する、総合型地域スポーツクラブの会員数を増加させる取組を強化する必要がある。 また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安心安全な運営等を行う必要がある。	「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、市民に身近なスポーツ大会の開催から、プロアスリートの育成、生涯スポーツの普及・振興など、幅広く事業を展開していく。		
	52	④⑪	夢・スポーツ振興事業	スポーツ振興課	トップアスリート等の活用により、オリンピック選手など国際、全国大会で活躍する、次世代を担うトップアスリートを育成するとともに、スポーツに対する意欲を醸成する。	選手強化事業参加者数	210人 (H26年度)	目標 1,000人 実績 1,547人 達成率 154.7%	R1年度 1,000人 R2年度 2,027人 202.7%	1,000人 (毎年度)	9,000	8,051	8,033	6,305	大変順調	新型コロナウイルス感染症の影響があり、教室・強化講習会等の実施種目数はやや目標に届かなかったものの、選手強化事業参加者数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。				
					教室・強化講習会等の実施	5種目 (H26年度)	目標 5種目以上 実績 10種目 達成率 200.0%	R1年度 11種目 R2年度 9種目 81.8%	11種目以上 (毎年度)											

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
Ⅲ-2-(3)-② スポーツを通じたにぎわいづくり	53	④ ⑧ ⑩	北九州マラソン開催事業	スポーツ振興課	<p>・コース：北九州市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前</p> <p>・種目及び参加人数 マラソン：11,000名、ペアリレーマラソン：150組300名、ファンラン(3km又は5km)：1,000名</p>	マラソン大会開催による経済波及効果	目標	単年度目標設定なし		単年度目標設定なし		11.5億円 (R4年度までに)	82,543	14,820	91,715	39,500	やや遅れ	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため大会は中止とした。</p> <p>一方、代替の取組として、市民に呼びかけ、それぞれがリモート参加でランニングやウォーキングを行う「オクトーバー・ラン&ウォーク2020」(主催：(一財)アールビーズスポーツ財団)に北九州市として参加した。</p> <p>加えて、「スポーツボランティアリーダー養成講座の実施」、「ボランティアリーダー登録者数」の指標において、目標を達成できた。</p> <p>以上のことから、「やや遅れ」と判断。</p>	<p>【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大のため、北九州マラソン、門司港レトロマラソン、萩村杯などの大規模大会をはじめ、多くの大会等が中止になった。</p> <p>一方で、サッカーU-24国際親善試合の誘致開催により、市民のスポーツ・健康に対する意識のさらなる向上を図り、本市の魅力在全国へ発信することができた。</p> <p>また、「アフターコロナを見据えた大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催や、オリ・パラキャンプ等の実施後の交流等を行っている。</p> <p>北九州スタジアム維持管理事業については、スタジアムの利用を通じて、まちなぎわいづくりを図るものであるため、継続して事業を実施していくとともに、コロナ禍での施設利用をより一層図り、市民に夢と感動を提供できる施設として、適切な維持管理運営を行っていく。</p>	<p>北九州マラソンや門司港レトロマラソンなどをはじめとしたスポーツ大会等について、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、安心安全な実施を目指すとともに、大会の開催により、市民のスポーツ・健康に対する意識のさらなる向上を図り、本市の魅力在全国へ発信することができた。</p> <p>また、「アフターコロナを見据えた大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催や、オリ・パラキャンプ等の実施後の交流等を行っている。</p> <p>北九州スタジアム維持管理事業については、スタジアムの利用を通じて、まちなぎわいづくりを図るものであるため、継続して事業を実施していくとともに、コロナ禍での施設利用をより一層図り、市民に夢と感動を提供できる施設として、適切な維持管理運営を行っていく。</p>		
							実績	—	—	—	—										—	—
							達成率	—	—	—	—										—	—
						インターネットでのマラソン大会全国評価ランニング(参加者7,000人以上の大会を対象)	目標	9位	1位	1位	1位	1位	1位									
							実績	2位	—	—	—	—	—									
							達成率	—	—	—	—	—	—									
						ボランティアリーダー登録者数	目標	20人	30人	30人	30人	30人	30人									
							実績	23人	44人	44人	44人	44人	44人									
							達成率	115.0%	146.7%	146.7%	146.7%	146.7%	146.7%									
						国際・全国大会等の開催数	目標	29回	30回	30回	30回	30回	30回									
							実績	35回	18回	18回	18回	18回	18回									
							達成率	120.7%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%									
目標	3,000人	3,000人	3,000人	3,000人	3,000人		3,000人															
実績	3,187人	0人	0人	0人	0人		0人															
達成率	106.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%															
国際大会・全国大会等スポーツ開催	スポーツ振興課	<p>市内での国際大会等の開催により、「みる」スポーツの機会の拡大を図り、多くの市民のスポーツへの関心の向上及び個々の競技力の向上等につなげる。</p>	門司港レトロマラソンの参加人数	目標	3,000人	3,000人	3,000人	3,000人	4,500	3,050	3,900	2,615	遅れ	<p>誘致活動の実績が6割を達成したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、国際・全国大会等の開催数も大幅に減少し、門司港レトロマラソンも中止となったため「遅れ」と判断。</p>								
				実績	3,187人	0人	0人	0人														
				達成率	106.2%	0.0%	0.0%	0.0%														

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)		決算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
55	③ ④ ⑪		ギラヴァンツ北九州支援事業	スポーツ振興課	本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	87% (H26年度)	目標	90 %	90 %	90% (毎年度)	35,000	35,000	40,000	3,075	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、Jリーグとして入場制限を実施した影響により、ギラヴァンツ北九州の平均入場者数が目標には届かなかったが、市民認知度は前年に比べて増加し目標を達成したため、「順調」と判断。	
							実績	85.8 %	96.1 %									
56	③ ④ ⑪		ホームタウン推進事業	スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数	3,622人 (H26年度)	目標	7,000 人	7,000 人	7,000人 (毎年度)					遅れ	本市のシンボルチームであるギラヴァンツ北九州の平均入場者数は所属するJ2リーグで22チーム中6位と健闘したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ観戦率が目標に届かなかったことから、「遅れ」と判断。	
							実績	6,049 人	3,469 人									
						スポーツ観戦率	23% (H26年度)	目標	40 %	40 %	40% (R4年度)							
							実績	28 %	15.2 %									
								達成率	95.3 %	106.8 %								
								達成率	86.4 %	49.6 %								
								達成率	70.0 %	38.0 %								

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善				
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標		予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価
57	④		大規模国際スポーツ大会等誘致関係事業	国際スポーツ大会推進室 世界・体操・新選手推進室	生涯スポーツの振興やまちの賑わい創りに繋がる大規模国際スポーツ大会の試合会場、及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地を本市に誘致すること、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へと繋げることを目的として、誘致プロモーションの展開や官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。 ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキャンプ地誘致数	—	目標	戦略的な誘致プロモーション活動等の実施	オリ・パラキャンプの実施	1ヶ国又は1競技以上(R3年度)	179,500	62,120	135,404	58,250	遅れ	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期を受けたオリ・パラキャンプの延期や、卓球ジャパンオープン萩村杯の中止、外国人の入国制限の実施等を受けて、国際スポーツ大会等の開催は目標を下回ったため「遅れ」と判断。		
					国際スポーツ大会等の開催	4件(H27年度)	目標	3件	3件	3件(毎年度)								
							実績	4件	1件									
							達成率	133.3%	33.3%									
58	⑦⑧⑩⑪		北九州スタジアム維持管理事業	スポーツ振興課	北九州スタジアムは、都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンド・ゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちににぎわいを生み出すイベントの開催など、市民に夢と感動を提供できる施設である。 施設の適切な維持管理・運営を実施することで、「みる」スポーツの機会提供の充実を図り、スポーツを通じたまちのにぎわいを生み出す。 「みる」スポーツの機会提供の充実(グラウンドの年間利用日数)	—	目標	100日	100日	100日(毎年度)	104,251	104,251	103,303	2,750	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種スポーツ大会や大規模なイベントが中止となる中、サッカーU-24の国際親善試合や、Jリーグでのスポーツ利用に加え、社会科見学やウォーキング教室など、様々な形での利用があり「フィールド100日利用」の7割を達成しているため、「順調」と判断。		
							実績	121日	71日									
							達成率	121.0%	71.0%									

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
Ⅲ-3-(1)-① 市民主体の地域づくりの促進	59	⑪	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体 (H26年度)	目標 134 団体	実績 133 団体	達成率 99.3 %	134 団体	137団体 (R5年度)	321,292	267,976	284,826	3,825	順調	補助金の導入団体数は、目標を達成していることから「順調」と判断。				
	60	⑪	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報を共有し交流できる場を設けるなど、住民主体の地域づくりを進める。	地域カルテフォーアップ事業を実施したまちづくり協議会の数	—	目標 1 団体	実績 1 団体	達成率 100.0 %	住民主体の新たな地域づくりが活発に行われている状態	3,731	2,578	4,696	3,575	順調	コロナ禍により地域活動自体が減少しているため、地域づくり活動への参加者の割合は、若干減少しているが、概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 地域総括補助金、地域づくり活動への参加者の割合も概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。 【課題】 地域が抱える課題や、その解決に向けた取組の内容は、様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める必要がある。	引き続き、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や、地域で様々な取組を行う各種地域団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や、各種支援事業などの地域ニーズに応じた施策を展開する。		
Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設活用・運営	61	⑪	市民センターの維持管理	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。 また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行う。	市民センター1館当たりの利用者数	32千人 (R1年度)	目標 42 千人	実績 32 千人	達成率 76.2 %	42 千人	42千人 (毎年度)	2,620,222	2,448,987	2,280,958	46,250	遅れ	老朽化対策等のハード面の整備目標を、概ね達成することができたが、新型コロナウイルス感染症拡大による貸館業務の中止等や、外出自粛の影響により、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数の目標達成率が40%未満となったため「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 市民センターの老朽化対策等のハード面を計画通り整備することができたが、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数の目標達成率が40%未満となったため「遅れ」と判断。 【課題】 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を実施する必要がある。 また、多様化する地域の課題を踏まえた支援を検討する。	市民センターにおけるWi-Fi環境の充実を図るなど、新たな活用方法を検討する。 また、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報を発信することで、利用者増加を図る。 さらに、市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策等のハード面を整備する。	
						市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ)	2,084千人 (H27年度)	目標 2,200 千人	実績 1,800 千人	達成率 81.8 %	2,200 千人	2,200千人 (毎年度)										

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
Ⅲ-3- (1)-③ 自治会・町 内会への加入 促進	62	⑰	自治会・町内 会活性化の促進	地域 振興 課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	目標	85	%	85	%	85% (毎年度)	28,464	27,355	27,682	4,095	順調	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合、地域づくり活動への参加者の割合については、双方とも目標値に近い結果となっているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活性化にかかる広報・研修については、自治会総連合会と連携しながら継続的に取り組んでいる。「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は、双方とも目標に近い結果となったことから「順調」と判断。 【課題】 若い世代への働きかけや、マンション等への自治会加入促進に向けた取組などにより、自治会・町内会活性化に努めていく必要がある。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンションの管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求め、力を入れていく。また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的にを行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。	
							実績	81.0% (H29年度)	81.4	%	79.2											%
							達成率	95.8	%	93.2	%											
						地域づくり活動への参加者の割合	目標	46	%	46	%	46% (毎年度)										
							実績	39.6% (H29年度)	42.1	%	33.9											%
							達成率	91.5	%	73.7	%											

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題	
Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボランティア活動の支援	63	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	88法人 (H29年度)	目標 120 法人	実績 116 法人	達成率 96.7 %	135 法人 (R2年度)	135 法人	20,176	19,803	18,314	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンター利用者数は大きく減少したものの、講座実施や広報誌などの発行は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数や補助交付事業件数等の成果指標は目標を概ね達成しており「順調」と判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
					サポートセンター利用者数 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	29,293人 (R1年度)	目標 25,000 人	実績 29,293 人	達成率 117.2 %	20,000人 (毎年度)	20,000人											
Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボランティア活動の支援	64	④	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	補助交付事業件数(累計) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	109件 (R1年度)	目標 110 件	実績 109 件	達成率 99.1 %	120 件	121 件	150件 (R5年度)	2,712	2,718	2,324	3,275	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調		
					成果発表会の参加人数(累計) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	431人 (R1年度)	目標 480 人	実績 431 人	達成率 89.8 %	530 人	457 人	680人 (R5年度)										
Ⅲ-3-(2)-② NPO・企業、機関などの連携の構築	65	⑰	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	4件 (R1年度)	目標 5 件	実績 4 件	達成率 80.0 %	5 件	10 件	5件 (毎年度)	1,570	1,474	1,606	2,470	大変順調	NPOと多様な主体との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。	大変順調	【評価理由】 協働件数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアップ等を行い、団体間の協働事業の立ち上げを支援する。	多様な主体による協働を推進するため、NPO・企業等との交流会を引き続き実施し、団体間の協働を推進する。

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)		決算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	66	④ ⑰	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	<p>協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。</p> <p>また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。</p>	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計) ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	2,146人 (R1年度)	目標 1,750人 実績 2,146人 達成率 122.6%	2,000人 2,351人 117.6%	2,750人 (R5年度)	1,291	842	972	6,400	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	大変 順調	<p>【評価理由】 協働についての研修への参加者数は目標を達成していること、協働件数は目標を大きく上回っていることから「大変順調」と判断。</p> <p>【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、各団体間のネットワークをさらに構築・拡大する必要がある。</p>	協働への理解を深めるセミナーやNPOと様々な団体との交流会の開催等、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組んでいく。
	67	⑰	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	<p>市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。</p>	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	4件 (R1年度)	目標 5件 実績 4件 達成率 80.0%	5件 10件 200.0%	5件 (毎年度)	1,570	1,474	1,606	2,470	大変 順調	NPOと多様な主体との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。			

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題
Ⅲ-3-(3)-② 市民との協働を推進できる 市役所づくり	68	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	120	法人	135	法人	135法人 (R2年度)	20,176	19,803	18,314	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンター利用者数は大きく減少したものの、講座実施や広報誌などの発行は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 サポートセンター利用者数は大きく減少しているものの、その他の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をさらに推進する必要がある。	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナー等の充実、NPO・市民活動に関する情報提供に取り組む。
							実績	116	法人	128	法人										
							達成率	96.7	%	94.8	%										
						サポートセンター利用者数 ※中期目標改訂 (R3年度目標設定時)	目標	25,000	人	25,000	人	20,000人 (毎年度)									
							実績	29,293	人	11,572	人										
							達成率	117.2	%	46.3	%										
69	④ ⑰	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計) ※中期目標改訂 (R3年度目標設定時)	目標	1,750	人	2,000	人	2,750人 (R5年度)	1,291	842	972	6,400	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調			
						実績	2,146	人	2,351	人											
						達成率	122.6	%	117.6	%											
					収入増加団体数(累計)	目標	14	団体	16	団体	16団体 (R2年度)										
						実績	15	団体	18	団体											
						達成率	107.1	%	112.5	%											

令和2年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R2年度		R1年度 人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題		
IV-4-(1)-② 偉人・先人の 顕彰	70	④	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数	10,741人(H23年度)	目標 7,500人 実績 20,896人 達成率 278.6%	R1年度 30,000人 R2年度 8,973人 29.9%	30,000人(R3年度)	26,821	9,789	8,784	30,950	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館(R2.2~R2.6)や特別企画展の変更、イベントの自粛などの対策が必要となった。安全に観覧できる感染防止対策の実施や、展示を紹介する動画配信などの取組を行ったものの、入館者数が減少したことから「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 松本清張記念館については、来館者の満足度は微増した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館等により、文学館、松本清張記念館ともに入館者数が減少し、目標を大幅に下回ったため「遅れ」と判断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ったうえで、より魅力的な企画展等の開催を企画し、若年層も含め、多くの市民の来館を促す仕組み作りが必要。	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ったうえで、より魅力的な企画展等を企画し、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。
	71	④	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人(H22年度)	目標 前年度(42,502人)比増 実績 47,828人 達成率 112.5%	前年度比増 10,453人 21.9%	前年度比増(毎年度)	14,342	9,638	14,319	23,250	遅れ	企画展は当初の目標通り開催し来館者の満足度は前年度より微増したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館(R2.4.1~R2.6.18)やその後の外出自粛等により入館者が激減したため「遅れ」と判断。	遅れ	【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ったうえで、より魅力的な企画展等の開催を企画し、若年層も含め、多くの市民の来館を促す仕組み作りが必要。	
IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上	72	⑧⑪	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000千円(H21年度)	目標 150,000千円 実績 91,540千円 達成率 61.0%	150,000千円 23,080千円 15.4%	150,000千円(R1年度以降毎年度)	42,224	17,106	31,650	47,100	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響で撮影支援活動が大幅に制約される中、新しい生活様式での映画鑑賞や映画館の魅力をPRする動画をドラマ仕立て企画制作。「映画の街・北九州」として認知度に関する目標を達成。	やや遅れ	【評価理由】 高い認知度を維持したが、エキストラ・ボランティアの参加人数及び経済効果は目標に達しなかったことから「やや遅れ」と判断。 【課題】 大規模撮影敢行に向けた、感染予防対策の徹底と、渡航制限による海外作品の撮影延期や中止、本市実地での撮影が行えない中、いかに本市の魅力を外に発信し、インバウンドを獲得していくかが課題である。	新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底することで、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。海外作品については、脚本中で本市を印象的に登場させるなど、実地でのロケが行えなくとも、将来のインバウンドを獲得できる取り組みを行う。
						北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	59.8%(H25年度)	目標 85.0% 実績 89.5% 達成率 105.3%	85.0% 86.8% 102.1%	85.0%(R1年度以降毎年度)									